

アフガンの現実

③

長谷部 貴俊

の所属国によつて考え方や方法論が異なりますが、特に米軍PRTは戦闘と一体化していると言われています。

もには危険な抗生剤を検診なしに配布。その際、敷地内では米軍による発砲もありました。

と協力しているのか？」と尋ね、不信感を抱いたそうです。もちろんそんなことはないし、JVCもこのために風評被害に遭ったことを伝え、誤解を解かなければなりませんでした。

米、医療支援も軍事一環 ばらまきで現場は混乱

日本の場合、外務省の文民職員がゴール県チャグチャラに派遣され、リトアニア軍が指揮するPRTと共に、復興のためのニーズ調査や支援案件の発掘を行っています。

NGOが活動する医療施設での活動を禁じる」との命令を出しました。しかし、東部地域におけるPRTによる薬のばらまきはその後も続けられていました。

きです。米軍PRTにおいては援助と引き換えにテロリストの情報を提供するよう人々に促すなど、まさに軍事活動の一環になっています。

ここで日本国際ボランティアセンター(JVC)が遭遇した事件を紹介します。05年に我々が支援する東部クナール県の診療所に突然、米軍PRTがやって来て、診療もせずに薬をばらまくということがありました。妊産婦や子ども

また08年4月にも、JVCが支援するナンガルハル県の診療所に米軍の特殊部隊が物資の配布にやって来て、JVCに関する情報を聞き取っていききました。その様子を見ていた村の男性は後日、JVCのスタッフに「JVCは米軍

軍PRTが東部の住民に対して、国連との調整もなく現金を配布したり、ISAFが軍隊独自の支援活動として断続的に空からの物資配布を行うなどして、人道支援活動そのものに混乱を引き起こしました。そのため、これまで地道

な人道支援を行ってきた民間援助団体による活動も地元の人々からは、PRTと同一のものとして混同され、長年培ってきた住民との信頼関係を揺るがすことになりました。

「ある時には外国軍は治安維持のためと言って、一般市民を巻き添えにしながら銃を持ち、ある時には、人道・復興支援のためと言って突然物資を配り出す。今日はどっちのために活動するのか、さ



JVCが建てた診療所での診察風景 (JVC提供)

東部地域でのばらまき活動はやむことがなかったため、この地域で活動するJVCなどNGOが米軍PRTに激しく抗議し、そしてようやく医療分野でこうした問題は減少していききました。そしてNGOは軍事や政治目的から一線を画し、人道主義に徹することでさまざまな勢力に認知され、活動が継続できているのです。

(日本国際ボランティアセンター事務局長
|| 次回は24日掲載